

事業名

**三笠はひとつ 三笠はならのまほろば**

目標

**伝統や文化を再認識させ、新たな郷土愛や誇りを育む。**

## 1. 取組の視点

幼稚園・小学校・中学校のつながりと学校・家庭・地域のつながり、大人と子どものつながりを縦・横・斜めの関係としてとらえ、さらに一体となって地域ぐるみで子どもを育てる気風を醸成し、協働体制を構築します。

子どもたちが、激しく変化する社会の中で、健やかに夢や希望・志を持って成長できるように、そして、郷土愛や誇りを育むようにさまざまな地域の力を積極的に活用します。

地域社会の一員として、子どもも大人も育ちあう「共育」、共同の生活の中で役割を担い期待され、認められていく「協働」を促す実践を積みあげ、継続します。

## 2. 取組の概要

## (1) クリーンキャンペーン

単なるごみ拾いでなく付加価値をつける計画を立案し、実施します。郷土の空間や資産を学ばせ、奉仕の精神を体得させるよい機会となりました。

## (2) なら三笠まほろば文化祭

幼稚園・保育園・小学校・中学校・地域の文化交流です。子どもたちに出会いと感動を体験させ、三笠中学校区の一体感の醸成に寄与しています。アンケート調査で次年度計画へ反映させ、充実を図っています。繁忙感がありますが、運営は円滑になり、達成感の大きなイベントです。



## (3) 親善ドッジボール大会

前年度、子ども未来会議で出された児童の

ニーズに応じて開催しました。4小学校児童の試合を初めて企画し、混成チームによるリーグ戦を実施しました。選手・応援団・運営スタッフとも全員が盛り上がる大会となりました。



## (4) ノーテレビデー、ノーゲームデーの推進

毎月、3日と17日をノーテレビデー・ノーゲームデーと設定し、家族の会話を促進してきました。チラシの作成及び配付、のぼりの掲示によるPR活動をはじめ、チャレンジウィーク設定や川柳募集など、通年活動として取り組んでいます。

## (5) 子ども未来会議

テーマを「ノーテレビデー・ノーゲームデーは、子どもたちを光り輝かせるか」として、小学校単位のワークショップと総括講演、川柳の入選発表と表彰を行いました。

## 3. 成果と課題

地域教育協議会の活動は、未来を担う子どもたちの成長や学校教育に対する関心の高いコーディネーターたちの献身的な努力により、軌道に乗りつつあります。しかし、学校や地域の実態、取り組み姿勢の差が出て、歩調の調整に難しさが生じることもあります。

今後は、さらなる機動的な組織づくりのために、学校教職員の意識改革及び幼・小・中間の双方向の連絡体制整備が急務です。また、地域住民に「地域教育協議会」の知名度を高め、住民参加や協働の必要性を浸透させること、そして、担い手の発掘・育成・拡大が喫緊の課題です。

事業名

**不断前進・文武両道の共有校**

目 標

**夢と自信と誇りの持てる学校作りを推進する。**

## 1. 取組の視点

本校では実践的なキャリア教育を実施し、生徒の主体的な学習をとおして、自分自身に合った職業観や将来の姿をイメージできるようにして、目標をもって学校生活が送れるようにしてきました。1年生では「労働に学ぶ」、2年生では「職場体験・マナー教育」、3年生では、「高校（進路）説明会」をテーマとして取り組んできました。

生徒の主体的活動や発表を重視した「文化交流会」「地域でのコンサート」等の活動を展開してきました。また、これらの活動ではできるだけ地域や保護者の協力や参画を得るようにして、生徒や学校の活動の様子を見ていただき地域の学校としての理解と存在感を広げていくようにしました。

## 2. 取組の概要

1年生の具体的な活動としては、身近な仕事について事前学習を進めた上で、「労働に学ぶ」授業において14の職種から、約35人の講師の方を招いて、仕事の楽しさ、苦労話などを聞かせていただきました。



2年生では、「マナー教育」の時間を年間8回実施しました。外部より講師を招き、世界のお金について、金融のしくみなどについて分かりやすく授業を受けることができました。「職場体験学習」では、約100事業所（会社等）において3日間の職場体験に取り組みました。

3年生になると間近に迫った自分の進路選択

の参考にするために土曜一日参観で県内外の高校（15校）の先生を招いて、その高校の特徴や卒業後の進路についての説明を受けて、質問に答えていただきました。



吹奏楽部が地元の各地区のまつりや少年院でのクリスマスコンサートなどを行い、「文化交流会」は、本校の文化部や学習の成果を舞台や展示室を使って発表しました。文化交流会は、年間の活動の目標になっており立派な施設で発表できることの喜びや満足感は生徒にとって大きな自信になりました。多くの保護者・地域の方々の参観の励ましで盛り上がりのある交流会になりました。

## 3. 成果と課題

3年間の学習の積み上げによって、職業についての様々な知識や多様な職業観を身に付けることができました。さらに、目標をもって生活する習慣や、学習意欲の向上、学校生活において将来の自分の姿を深く考えることができるようになりました。

様々な活動を通じて、多くの保護者・地域の方々に三笠中学校の活動を観ていただき、意見や感想も聞くことができました。とりわけ文化交流会やコンサートは好評で、生徒の頑張りの様子が観ている方々に感動を与えることができました。また、それが生徒の自信にもつながりました。

事業名

## 世界にはばたく椿井っ子

目標

地域の教育力を活かし、特色ある教育活動を創造する。

### 1. 取組の視点

本校は、奈良市の中心部に位置し、世界遺産に指定された多くの社寺や観光名所に隣接しています。また、明治5年に開校した長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の人々は愛校心を強く持たれています。また、学校教育に対する関心も高く、何事にも協力的です。

こういった素晴らしい教育環境の中で、自分の郷土に誇りを持つとともに、身近な所から積極的に行動し、表現や発信ができる児童の育成を志しています。そして、世界に大きく目を向け、持てる力を発揮して夢に向かって頑張れる子を育てたいです。

### 2. 取組の概要

地域の人材や文化の活用を図り、本校の教育三本柱「国際理解教育」「環境教育」「特別支援教育」を進めました。特に「地域から学ぶ」をテーマに、校区を活動の場として、人とのかかわる体験的な学習に取り組みました。

<活動例>

#### 1年（昔遊び）

地域の高齢者の方に来ていただき、こま回しやおはじき等の昔遊びを教えてくださいました。交流した地域の方のやさしい思いにふれることができました。

#### 2年（奈良公園の自然に親しもう）

奈良公園をフィールドワークし、ザリガニ釣りをさせてもらった神社の方から、植物や虫たちのことや命の大切さを教えてくださいました。

#### 3年（筆作り）

地域の伝統工芸を学ぼうということで、筆作りに挑戦。伝統工芸士の方にゲストティーチャーとして来ていただき指導をもらいマイ筆を製作しました。

#### 4年（外国の小学生と交流しよう）

本校と長年交流を行っているオーストラリア・キャンベラのエイズブリー小学校の子どもた

ちと手紙による交流を行いました。外国語ボランティアガイドさんの協力を得て、メッセージを英語に翻訳していただきました。

#### 5年（雅楽の鑑賞と体験）

学校の裏にある大宿所で練習を行っている南都楽所の方に来ていただき、雅楽の演奏を鑑賞しました。また笙などの日本古来の楽器に触れさせてくださいました。

#### 6年（「椿井のすごい」を映画で表現）

校区にある文化遺産や伝統工芸のお店を取材。地域の方とふれあい、多くの情報を頂きました。それをもとにしてアメリカの映画監督さんと映画を制作。なら国際映画祭では、その映画を校舎につり下げた大スクリーンで地域の人々に見ていただきました。



### 3. 成果と課題

本事業を通して、子どもたちは地域の多くの人たちとふれあう機会をもちました。その関わりの中でコミュニケーション力などの「生きる力」を育てることができたと思います。また人だけでなく地域の遺産や文化との出会いから、自分たちの住んでいる地域の素晴らしさに気づくことができたことも大きな成果です。

ただ、事前の準備や打合せに時間がかかるため、その確保や円滑な運営が課題であると考えます。

地域を生かし、子ども達自らが発見した様々な問題を、子ども自身で解決できるように、その支援の多様な道筋を整えることが大切です。



事業名

## 地域とスクラム、学び育つ大宮アクション

目標

地域の人々とのふれあいを深め、人としてのものの見方、考え方を学ぶとともに、生まれ育ったまちに誇りをもつ子どもを育てる。

### 1. 取組の視点

私たちの健康で安全な日々の生活は、地域の方々の様々な支えで成り立っていることが多いです。例えば、大宮まつりでは、地域の方々と触れ合うことによって、この地域に生まれ育ってよかったという誇りをもてる子どもが育っています。また、生活科の学習では地域におられる名人さんに、餃子づくり・こんにゃくづくり・かごづくり・手品・指絵等を教えていただくことを通してものづくり・技づくりの良さや工夫・努力・苦労等から人としてのものの見方、考え方を学んだことは児童の大きな財産となっていくます。

### 2. 取組の概要

＜大宮まつり＞



社会福祉協議会が中心となって、大宮地区の諸団体が合同で開催する大イベントです。大宮小学校の児童は、子どもみこしや盆踊りでまつりに参加します。運動場は、各種団体の模擬店でいっぱいです。小学校の教職員は「コロッケ」「フライドポテト」、PTAは「焼きそば」「フランクフルト」を担当しました。

当日もさることながら、1か月も前から櫓づくりの準備、地域総出での後片付けがあり、このような地域の支えが、大宮まつりを児童と伝統文化をつなぐ大切な場に行っているといえます。

＜心温まる『ふれあい昼食会』＞

大宮小学校へ地域の高齢者をお招きして、ふれあい昼食会を毎年行っています。社会福祉協議会と6年生のコラボレーションで世代をつなぐ和やかなひとときを過ごすことができました。

6年生が出し物をしたり、参加者との語らいがはずんだりして意義ある交流となりました。最後に記念撮影をし、後日それにメッセージを添えて、参加者にお送りしました。お礼の手紙をいただくなど、交流が続いています。



### 3. 成果と課題

地域の方々との交流・協働からは、自分は何人かの人とのつながりの中で生きているということ、今の自分にできることは何かということに気付く、考え、行動する児童が育ってきています。

高齢者の方々とのふれあいからは、自分も人に喜んでもらえることができること、喜んでもらえることは自分の幸せにつながるということに気付くとともに、自分もこの大宮の地域の一員であり、自分が地域のためにできることを考えていこうとする意識の芽生えにつながっています。

今後は、児童がアイデアを発信し、企画などに参加・参画していく手立ての追求が課題です。

事業名

## 地域で学び 地域から学び 地域に働きかける 大西っ子

目標

「わたし大好き あなた大好き 学校大好き わが町大好き」  
と思える児童の育成

### 1. 取組の視点

奈良の伝統芸能「雅楽」や校区を流れる「佐保川」など、地域（奈良）には優れた教材があり、和楽器や川の学習など、児童の体験活動を数多く取り入れます。

地域には、スポーツクラブがあり、専門的な知識や技能をもった方々もいます。昨年度の課題であった児童の体力向上を図る体力づくり教室や昔遊び教室など、地域の方々から学んでいきます。

学校や子どもたちを支援していただいているボランティアの方々がたくさんいます。皆さんが活動していただきやすいようにし、感謝の気持ちを伝えていきます。

子どもたちの地域行事への参加、地域住民の学校行事への参加を促します。

### 2. 取組の概要

#### (1)「地域（奈良）を教材にした体験活動」

春日大社南都楽所の方々から笙や箏などの和楽器の指導を受け、奈良の伝統芸能「雅楽」を



フリー参観で保護者や地域住民に披露しました。

環境科学博士の谷先生を招いて、校区を流れる佐保川の環境を水生生物の種類により知ることができました。

#### (2)「地域の方々に学ぶ体験活動」

地域のスポーツクラブのインストラクターを



講師として、水泳教室（6・7月）、マラソン教室（11月）、リズム・ダンス教室（2

月）を行い、児童の体力向上を図りました。

地域の万年青年クラブの方々から、ケン玉・こま回し・めんこなど、昔遊びを教えてもらいました。

栽培活動では、地域の名人さんに野菜づくりを指導してもらい、ハツカダイコンなどを収穫しました。



#### (3)「地域の方々に支援いただく活動」

登下校の見守り、読書活動 教科学習（理科・家庭科）、クラブ活動（茶道・将棋・マジック）、除草・剪定など、多くのボランティアの方々が学校や子どもたちを支援してくれています。



児童会から登下校見守りボランティアへ感謝状と楯の贈呈

#### (4)「地域の方々とともに行う活動」

敬老の日に行われた「年長者の集い」に参加し、歌と器楽演奏の発表を行い、手遊び交流やプレゼント渡しなど、地域の年長者と交流を図りました。



芸術鑑賞会では、保護者や地域住民とともに、劇団「民話芸術座」公演を観劇しました。

### 3. 成果と課題

地域に関わる体験活動を行うことにより、児童に地域（奈良）を大切にできる心が育まれ、学ぶ楽しさや成就感を体感させることができました。

保護者アンケート「学校は地域と連携して教育を行っている」肯定回答（強く思う）が、前年度比＋7.5ポイントの評価を得ました。また、学校評議員からは、地域と連携した体験活動を高く評価する意見をいただきました。リーフレットの作成・配布による周知も図り、この事業が保護者や地域住民に理解され、支持されていると考えます。

次年度は、より多くの地域の声を吸い上げ、反映させながら、事業を進めていきます。

事業名

## 人に優しい ものに優しい チャレンジする 佐保川っ子

目標

地域にある文化的な歴史遺産や自然環境、そして地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物だけではなく、この佐保川地区を愛する子どもを育む

### 1. 取組の視点

昨年同様に本校では、「佐保川」という素晴らしい自然環境でもあり、歴史的にも万葉集に詠われた存在を生かした活動を事業の基本としています。その中でも、「佐保川のほたる」の復活への取組、子どもの心情を豊かにする取組、そして地域の歴史遺産を活用した取組を通して事業目標達成に努めました。

このような取組から、子どもたちが将来的に、この佐保川地区に愛着を感じて回帰するようになればと願っています。

### 2. 取組の概要

#### ○「佐保川のほたる」の復活へ

学校では、毎週月曜日に「水辺のそうじ」というテーマで中学年以上の児童が清掃活動を続けています。



この活動は本校児童には定着しており、特に今年の5年生は、秋に行われた近畿小学校社会科教育研究大会で、佐保川をテーマにした授業を展開し、文部科学省の澤井陽介教科調査官からも賛辞をいただきました。授業では、地域の方や奈良市環境政策課の方から、佐保川の歴史や現状について学びました。

また低学年では、佐保川で「生き物らんど」というテーマで生き物を観察したり、校内で飼育したりして学びを深めています。

○子どもの心を豊かにする。

昨年度からの継続で蔵書数を増やすという取組は、今年も行いました。

今年の活動は、去年は少し及ばなかった環境整備の充実に力を注ぎました。去年は、図書委員だけで掲示板を整備していたが、今年は、奈良市の図書館支援センターの指導協力を得て、地域のポ



ランティアの方々が積極的に関わっていただき、大きく前進しました。

### 3. 成果と課題

蛍の復活に向けては、清掃活動や放流の効果もあり徐々に成果をあげており、地域の方からも継続を望む声が多く聞かれます。

図書館整備については、次年度も今年の成果をより発展させるような取組を進める必要があると考えます。

一方、次年度は地域の歴史遺産を更に活用した取組を推進する必要があると考えます。



事業名

## 育ち合おう！感動いっぱい幼稚園

目標

- ・地域歩いたり、地域行事に参加したりして地域のよさを知る。
- ・音楽を楽しんだり、思いっきり体を動かしたりしながら  
様々な人との出会いを楽しむ。

### 1. 取組の視点

本園は、幼児の大半が核家族であり、入園するまで地域の人とのかかわりや友だちと遊ぶ体験が乏しい傾向にあります。また歩くことが少なく体力の弱さも感じられます。本園の校区はすぐれた人材に恵まれ、地域の方々には、園教育に深い理解と積極的な支援をいただいています。そこで、地域の教育力を生かした活動をとおして、心のふれあいを感じながら様々な体験をすることで、みんなが育ち合える感動いっぱいの園づくりをめざしています。

### 2. 取組の概要

#### (1) 地域の環境を生かした活動

- ・地域を歩く。
- ・親子ウォークラリーをして地域を知る。
- ・地域の地図を作成する。

#### (2) 地域の方に指導を受けて楽しむ活動

- ・大宮まつりで盆踊りを教えてもらい、踊る。
- ・お茶会や生け花を体験する。



#### (3) 音楽や体を動かして遊ぶ活動

- ・なら三笠まほろば文化祭に参加し踊って遊ぶ。
- ・給食会で合奏をし、地域の方に聴いてもらう。
- ・音楽会を実施し歌や合奏をする。
- ・“元気っこクラブ”で体育専門の先生の指導を受け、体力づくりや講演会をする。

・“おにいさんと遊ぼう”で地域の方とボール・鉄棒などをして園庭で遊ぶ。

・奈良クラブの方とサッカーをして遊ぶ。



### 3. 成果と課題

運動会で組み立て体操や前回りを全員できるようになったことを「元気っこクラブ」の成果として見ていただき、保護者や地域の方に喜んでいただきました。講演会では幼児期の体力作りの大切さを啓発できました。運動に興味をもちいろいろなことに挑戦する意欲が育ち、園庭開放中の遊びで進んで鬼ごっこやドッチボールを楽しめるようになってきました。保護者とその姿を見て一緒に遊ぶ姿も見られるようになりました。親子ウォークラリーをしたり、地域の行事に参加したりして、地図を作成し地域のよさを発見できました。また、教育センターへプラネタリウムを見学に行ったことで家庭からも休日に参加する保護者が増えました。音楽機器を充実させたことで音楽会や生活発表会に生かすことができました。様々な体験を通して地域の方々に見守られていることに気づき、挨拶を進んでできるようになりました。地域の方々の積極的な協力があり、どの活動も充実したものとなりました。今後も地域の支援をいただき、本年度以外の体験活動や保育環境の整備を考えていきたいです。

事業名

**いきいき のびのび わくわく 大西っ子**

目 標

知・徳・体のバランスがとれた幼児を育てる

## 1. 取組の視点

地域の人・もの・ことに触れる多様な体験を通して心も体も躍動する子どもを育てます。

- ・ 計画的に園外保育を実施し、身近な文化遺産や奈良の世界遺産、地域の自然環境などに触れたり、地域の方の話を聞いたりして、自分の住んでいる町に親しみや愛着を感じ、大切にしていこうという気持ちを育てる。
- ・ 園外保育を通して体力づくりの基礎である歩く経験を積み重ねたり、親子での運動遊びを実施したり体を動かすことで、心も動く楽しさを味わえるようにする。
- ・ 地域の方をゲストティーチャーに招いて日本の伝統文化や栽培活動、運動遊びを体験したり、地域の行事に参加したりして人とかかわる喜びを味わうとともに豊かな感性と規律ある態度を身に付ける。

## 2. 取組の概要

地域を流れる佐保川には四季を通して園外保育に出かけ、地域の方にとっても憩いの場です。今年度は講師を招き佐保川を探索しました。幼児



達は採取した生き物から佐保川が少し汚れているということを知りました。佐保川をもっときれいな川にしたいという思いが幼児達に芽生えて、家庭からの汚水を減らすために「アクリルたわしを使おう」「幼稚園で飲む牛乳もきれいに飲み干して洗おう」など家庭にも広がり環境教育にもつながりました。また、地域の方から昔の佐保川や地域の様子のお話を聞き、大切に守り継がれてきた

ことを知ることができました。

教育センターや大安寺など距離を伸ばした園外保育を実施することで最初聞かれた弱音もなくなり、心身共にたくましくなったと感じます。講師を招いての親子運動遊びは、触れ合いながら



体を動かす楽しさを教えていただきました。地域の教育力を活用して日本の伝統文化に触れる茶道教室、身近な文化遺産に触れることもねらった大安寺でのお茶会は保護者や地域の方々の協力で、実施することができました。また、鹿寄せや興福寺見学の体験はわらべうた遊びをとおしての事前学習を行ったことで興味をもって自主的に参加でき、感動体験となりました。

## 3. 成果・課題

計画的に佐保川に親しむ活動を実施し、探索をしたことで幼児達は自分達も佐保川を大切にしていこうという気持ちが芽生えました。また、茶道教室では人を敬い、ものやことを大切にすることを知り、大安寺のお茶会では五感を通して厳かな雰囲気を感じ、場にふさわしい態度を身に付けることができました。様々な体験を通して豊かな感性が育ち、鹿寄せや興福寺見学では実物に出会うことで幼児達の感動はより大きくなり、奈良のすばらしさを感じることもできました。体力づくりでは本年の取組を基により活動内容を工夫し、地域の人材発掘に努め、計画的・継続的に取り組みます。